

平成29年第1回北海道議会定例会 一般質問 再質問

年月日 平成29年3月9日(木)

質問者 民進党・道民連合 笹田 浩 議員

質 問	答 弁
<p><b>一 国保制度について</b></p> <p><b>(一) 市町村に対するインセンティブについて</b></p> <p>市町村においては、これまで長い間、健康づくりに努力して現在の取組につながっているわけであり。平成30年度からは国民健康保険法の規定に基づいて、市町村が道に納める納付金、この算定上、医療費水準を基に算定される、こういう事情がありますから、市町村は今まで一生懸命行ったこと、それを、また、さらに健康づくりなどの取組を行っていかねば、納付金の額が減っていかないというわけがあります。そのためにも、市町村がこれからも引き続き健康づくりに意欲的に取り組めるよう、市町村に対するインセンティブが必要であると私は考えますが、道としてどのように対応する考えなのか、再度、見解を伺います。</p> <p><b>(指摘) 漁村地域の活性化について</b></p> <p>漁村地域の活性化についてでありますけれども、知事、小野寺部長、大変前向きな答弁ありがとうございました。でも指摘はちょっとさせて頂きます。</p> <p>漁村地域の活性化について指摘はしますけれども、昔から漁師が経営する民宿これは全国各地に展開されています。しかし、グリーンツーや農泊が取り組まれる中で、答弁にあった漁村での民泊、いわゆる渚泊、これは農泊に比べて大きく遅れています。</p> <p>国は新年度から、新たに漁村滞在型旅行をビジネスとして取り組むため「渚泊推進対策事業費」として10億円の予算化を予定をしているところであります。</p> <p>地域に点在する漁師の民宿をこの事業でネットワーク化するなどして、漁村の多面的な機能を最大限活かすよう、この事業を市町村や漁協が取り組めるよう道として働きかけていくべきであります。</p> <p>しかし、漁業地帯も人口減少、高齢化が続いているわけでありまして、この体験型観光なども、進めようにも人材が不足しているという課題があります。そこで、高齢漁業者の経験や知恵を借りて、進めるのも一つの方法であります。それは、生きがいつくりにも繋がるわけでありまして、近年のすねホタテやコンブなどの漁労作業は総じて重労働であって稼働時間も非常に長いわけでありまして。高齢者が主体での操業、これは年々厳しくなっておって、廃業者も増えてきている状況であります。さらに、収入も実は国民年金だけという世帯も多くて、生活も楽ではありません。</p> <p>これまでの漁村の収入といえば、魚介の水揚げが中心でしたけれども、新たな収入を見いだすことも重要な課題だというふうに思っています。その先には、漁師が少しでも豊かに老後が送れるのではないかと私は考えるわけでありまして。</p> <p>漁村の新たな価値の創生に向けて、水産部局においても体制の充実を図るなどして取り組みを強化すること、これを強く指摘いたします。</p>	<p><b>(知事)</b></p> <p>健康づくりの推進についてであります。市町村が健康づくりの取組にインセンティブを持てるよう、国においては、特定健診の受診率など客観的な数値により評価して、補助金を交付する保険者努力支援制度を国保制度改革と併せて導入することとして承知しております。市町村では、様々な工夫をこらしながら、健康づくりの推進に取り組んでいるところであり、道におきましては、国の制度とは別に、市町村への交付金を活用して、特定健診の普及啓発や医療費分析などを支援をいたしているところであります。今後とも、これらのインセンティブなどを活用し、地域の実情に応じた取組が進められるよう、市町村の意向を踏まえながら、対応してまいりたいと考えております。</p>

質 問	答 弁
<p><b>二 教育課題について</b></p> <p><b>(一) 地域キャンパス校について</b></p> <p>教育長から新しい指針を平成30年3月を目途に作成するという答弁がございました。地域キャンパス校の生徒数の基準は、地域や関係団体からの要望を踏まえて、20人未満から是非とも10人未満にしてほしいということ、その検討を進めていただきたいと考えているわけであります。</p> <p>要請書には、出張授業や遠隔授業のために地域キャンパス校からセンター校に配置されている教員を戻してほしい、という中身もあります。地元からも、同様の意見もあるというふうに承知しています。</p> <p>さらに、地域キャンパス校には、地元の中学校が通いたくなるような、通わせたいような教育内容の充実も必要と考えています。</p> <p>人口減少が進んでしまう地方にとって、地元で高校教育を受けることができなくなることは、地元では切実な問題であります。キャンパス校が所在する町にとって、キャンパス校の存在は大変重要な問題であり、関係者は協議の途中経過を含めて、少しでも早く検討結果を知りたいと思っています。検討結果の公表はいつ行われるのか、再質問をして、私の一般質問を終わります。</p>	<p><b>(教育長)</b></p> <p>高校教育に関する新しい指針の作成についてでございますが、道教委では、現在、有識者からなる検討会議において、御議論いただくとともに、中・高生やその保護者などを対象に実施いたしました高校進学などに関するアンケート調査について、集計・分析を行っているところでございます。</p> <p>今後、地域キャンパス校における再編基準の緩和に向けた人数要件や教員配置の工夫などについて、地域からの御要望などを踏まえ、議論を深めていくとともに、道議会はもとより、関係団体や広く道民の皆様から御意見を伺うことができるよう本年9月頃には素案をお示しし、来年度末を目途に新しい指針を作成してまいりたいと考えております。</p>